労働者安全衛生対策部会
【資料３－１】

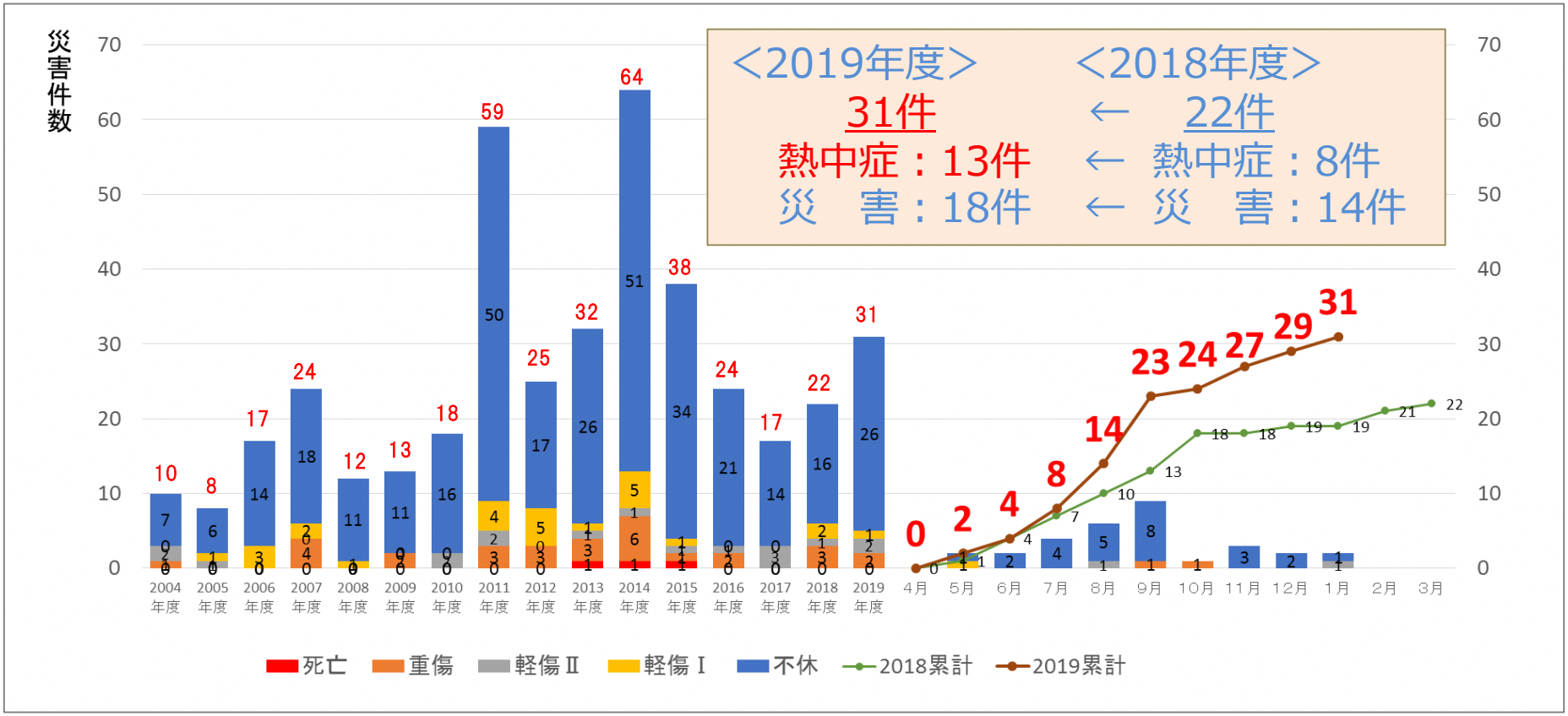
人身災害の発生状況について

2020年2月12日

東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.　無断複製・転載禁止　東京電力ホールディングス株式会社

1．2019年度災害発生状況（1/4）全災害（熱中症・不休含む）



- 2019年度における災害件数は、2018年度末22件を上回る31件。(1月31日現在)
- 熱中症の発症が2018年度比５件増加（8件→13件）、その他の災害は2018年度比4件増加（14件→18件)となっている。

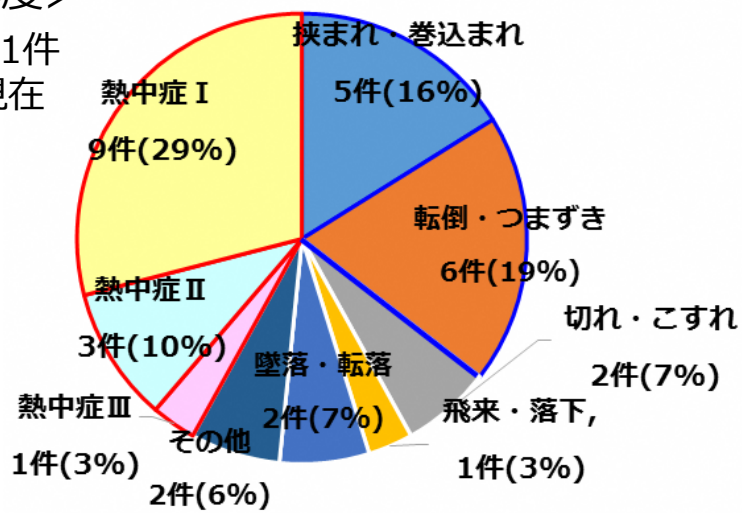
©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.　無断複製・転載禁止　東京電力ホールディングス株式会社

2．2019年度災害発生状況（2/4）熱中症・全災害

（2）災害種類別発生状況

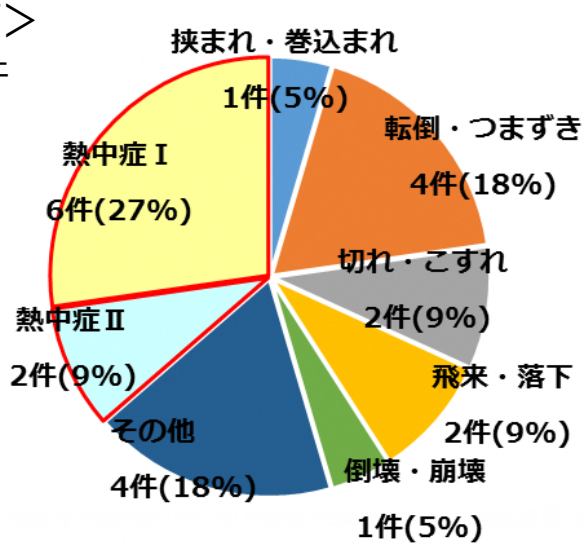
＜2019年度＞

全件数：31件
1月31日現在



＜2018年度＞

全件数：22件



- 全災害の内「熱中症」が高い割合を占めている
  - 2019年度 13件（42%）
  - 2018年度　8件（36%）
- ①「挟まれ・巻込まれ」②「転倒・つまずき」が増加している
  - ①2018年度　1件⇒2019年度　5件
  - ②2018年度　4件⇒2019年度　6件
- 2018年度発生していない「墜落・転落」が2019年度は2件発生している

©Tokyo Electric P

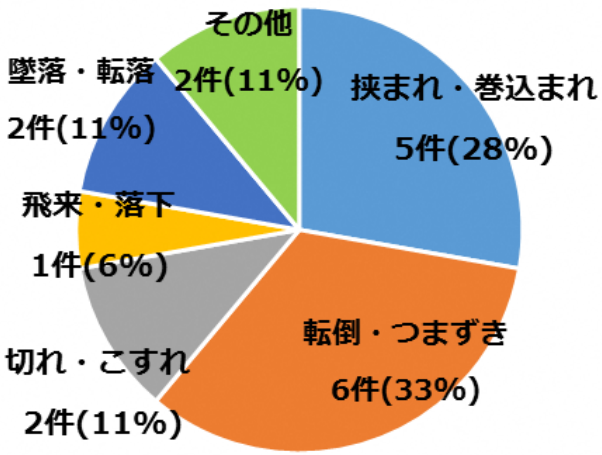
禁止　東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO

3．2019年度災害発生状況（3/4）　熱中症を除く

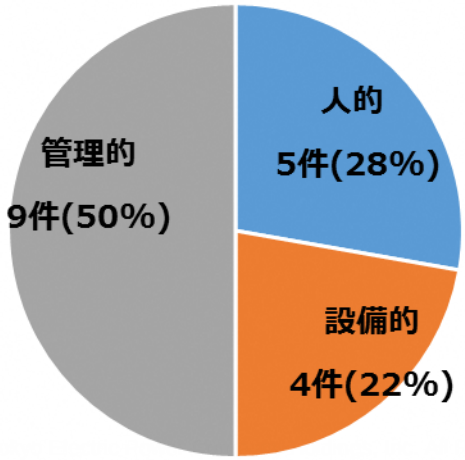
（３）熱中症を除く災害

a．災害種類別発生状況



・「転倒・つまずき 6件」「挟まれ・巻込まれ 5件」が計11件(61%)を占めている。
・休業災害は、「墜落・転落 2件」「転倒・つまずき 2件」「挟まれ・巻込まれ 1件」の計5件発生している。

b．３原因別発生状況



・管理的要因による災害が計9件全体の5割を占めている。作業手順への落とし込みの不足や、事前検討不足、またKYでリスク抽出が出来ていたにもかかわらず対策が明確でなかったことにより発生したもの。KYに関する内容

主な災害事例

＜トラック荷下ろしの際左手小指を支柱と荷台間に挟み負傷＞
・トレーラ荷台のあおり支柱の引き抜き方法を作業手順書に記載していなかった。

＜側溝据付作業で切断片から突き出た鉄筋に左手が接触負傷＞
・ＫＹ活動で切断作業におけるリスク抽出がされていなかった。

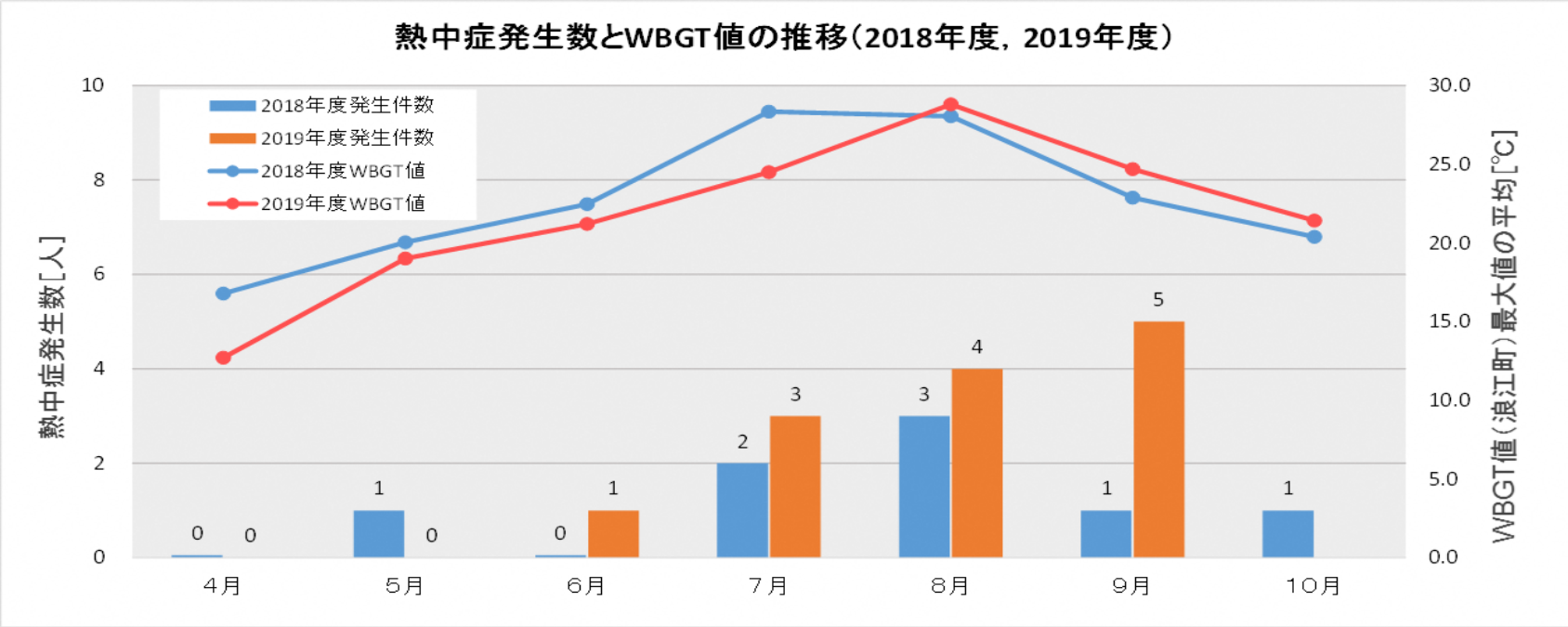
erved.　無断複製・転載禁止　東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO

4．2019年度災害発生状況（4/4）　熱中症

（4）熱中症災害

WBGT：暑さ指数（湿球黒球温度）：Wet Bulb Globe Temperature



- 熱中症発症件数　2018年度比 5件増(8件⇒ 13件)
- １Ｆでは、7月下旬の急激な気温の変化に身体が熱順化できない状態で発症
- 2019年度のWBGT値は8月～10月に亘り、昨年よりも高い値を示したことも影響し、9月に5件の熱中症が発生
- 2020年度の熱中症対策は、熱中症発生要因、特徴を踏まえ、必要な予防ルールの見直しや注意喚起方法（伝えるタイミングや場面、伝え方など）を反映。

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.　無断複製・転載禁止　東京電力ホールディングス株式会社

5．2019年度の主な活動と評価

1.「危険箇所抽出」災害撲滅キャンペーンの実施

・工事エリア、資材保管庫、執務エリア等の 「転倒・つまずき」「はさまれ・巻き込まれ」「墜落・転落」の要因となる危険箇所の排除活動の実施（当社，企業）

＜結果＞　6月　是正件数　９００件（なくす：175件，注意標示：725件）

12月　是正件数　現在集約中　（参考　2018年度　857件）

＜評価＞・期間中の「はさまれ・巻き込まれ」等の災害は発生しなかった。

・多くの是正件数があげられていることからも現場環境の改善に繋がっていることから引き続き継続していきたい。

2．ＴＢＭ－ＫＹ、リスクアセスメントの改善

・現場特有の危険を抽出、排除することに効果の高い2段階KYを推進してきたところ

»2019年度の災害発生状況の通り、手順の落とし込み不足や、リスク抽出されるも対策が不明確などKYに関する要因があった。

»実際に現場でKYの実施状況を確認したところ、

2段階KYの導入が浸透していない。

対策が抽象的（…周囲確認ﾖｼ，…足元確認ﾖｼ，…声を掛け合う）なものが多く散見され、具体的なリスクの抽出が不十分。

＜評価＞

・2段階KYと並行して「KYを充実・効果的なもの」とするための活動を展開。

・企業と共に実施する安全会議(11月，12月)にて「TBM-KYを充実させて、人身災害ゼロを目指す」をテーマに、他社良好事例（朝礼動画視聴）による気づきや、グループ対話にてKYの質を高めるために議論をした。

・今後、KYの充実・強化，工事監理員の関与などを中心に活動を検討していく